

# ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC 2019年度活動報告書



## ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MACとは

地雷廃絶を目指し、NGOピースボートの一プロジェクトとして1998年に設立しました。平和、人権、環境、国際交流などをテーマとしたピースボートの地球一周クルーズで、カンボジアや旧ユーゴスラビアなどを訪れ、深刻な地雷被害の状況を知ったことが設立のきっかけです。世界では、2018年の1年間にわかっているだけでも6,897人が地雷や不発弾による被害にあいました。たとえ戦争が終わったと報道されていても、その地域に暮らす人々にとって、地雷がある限りまだ戦争は終わっていません。P-MACは発足以来、地雷廃絶を目指して、地雷除去や被害者への支援、地雷問題を伝える活動を続けています。

## カンボジアの新型コロナウイルスの影響について

世界で新型コロナウイルスの感染拡大が続いていますが、私たちが支援を続けるカンボジアでは2020年7月30日までに234人の感染が確認されています。これまでに164人が快復し、死者は出ていません。感染者の多くが海外からの観光客や帰国者で、空港での水際対策が功を奏し、市中感染は広まっています。

そのため、地雷除去活動は通常通り続いています。感染予防措置を徹底しておこなわれています。また、地雷が埋まる村では地雷回避教育と一緒に、感染予防のための手洗い指導もおこなわれています。万が一感染が広まっても、地雷が埋まる村には、病院や保健所がありません。今後、ますます石けんやきれいな水を手に入れられる環境をつくること、そして長期的には地雷を除去することで村の復興を支援することが重要と考えています。

## カンボジアから地雷をなくそう 100円キャンペーン

### <カンボジアの地雷問題>

カンボジアでは1993年ごろから地雷除去活動が始まりましたが、今も多くの地雷が残されています。1990年代には毎年数千人の地雷や不発弾による被害者が報告されていましたが、都市部など人口が多い場所の地雷除去が進んだことで、2016年にはじめて被害者数が100人を切りました。2019年の1年間の被害者数は77人。2020年は1～6月の半年間で36人が被害にあっています。記録に残っているだけで1979年から2020年6月までに、19,789人が死亡し、45,102人が負傷しました。

カンボジアでは2019年末までに約1,900平方キロメートルの地雷除去が完了し、107万個の対人地雷と25,158個の対戦車地雷、281万個の不発弾が処理されました。政府は2025年までに地雷除去完了をめざしていますが、地雷対策庁（CMAA）はさらに2,000平方キロメートルの地雷除去のために約4億ドル（434億円）が必要と推計しています。



### <100円キャンペーン報告>

地雷除去には膨大な時間と労力がかかります。しかし、地雷除去にかかるコストは1㎡あたり約100円です。そこでP-MACでは、募金活動「カンボジアから地雷をなくそう100円キャンペーン」を展開しています。全国5か所のピースボートセンター（東京、横浜、名古屋、大阪、福岡）で街頭募金活動をおこなっています。2019年度は全国で合計174回の街頭募金をおこないました。また、全国のみなさまからもご寄付いただきました。集まった募金は現地地雷除去団体「カンボジア地雷対策センター（CMAC）」へ送り、地雷除去がおこなわれました。



## 2019年度募金報告

### 【募金総額】

2019年度の募金総額	¥2,275,377-
2018年度より繰越金	¥2,725,708-
合計	¥5,001,085-

### 【上記の募金は以下のプロジェクトに使用しました】

スナハイ村地雷除去	¥3,223,136-
次回へ繰越	¥1,777,949- (2020年度におこなう地雷除去にあてます)
合計	¥5,001,085-

#### <地雷除去支援したスナハイ村について>

カンボジア北部、タイ国境に面したプレアヴィヘア州に位置するスナハイ村は、カンボジア内戦中の1986年から1989年まで軍事基地が置かれた場所です。激戦地となったため、今も多くの地雷や不発弾が残っています。その後はジャングルとなっていたこの土地に、農地を持たず貧しい生活をしてきた人々が各地から集まり、2005年にスナハイ村が誕生しました。人々が移住した後に、村の多くの土地が地雷原だと判明しました。しかし人々にとって、スナハイ村は地雷が埋まっていようとも、ようやく手に入れた自分たちの土地であり、希望の村です。P-MACは、人々が安全に暮らせるように、2010年以降、スナハイ村の地雷除去支援を進めてきました。

#### <小学校周辺の地雷除去が終了しました>

P-MACが地雷除去と建設を支援し、2016年に完成した「ピースボート・スナハイ小学校」には226人（2019年末時点）の子どもたちが通っています。それ以前は、村にあるお寺の敷地に建てた小さな教室しかなく、授業を受けられる子どもは限られていました。今では多くの子どもたちが安全に学校で学び、地雷の心配なく広い校庭で遊んでいます。



<安全になった校庭で遊ぶ子どもたち>

しかし、スナハイ村には今も地雷が残されています。小学校に隣接する土地も多くが地雷原のままです。数年前までは、地雷原と知らずに子どもたちが歩いたり、村人が農作物を植えたりもしていました。学校でも、地雷原に入らないように先生たちが注意喚起をしていましたが、子どもたちが入り込む可能性も高く、地雷除去が心待ちにされていました。2019年8月から2020年1月にかけて、この小学校周辺の地雷除去がおこなわれ、安全な土地に生まれかわりました。

#### <地雷除去支援概要>

場所	カンボジア プレアヴィヘア州スナハイ村 (Sna Pha Ek Village, Srayong Commune, Kulen District, Preah Vihear Province)
期間	2019年8月1日～2020年1月31日
実施機関	CMAC第6部隊第7技術調査および除去チーム
費用	3,223,136円 (29,989.92米ドル)
除去面積	318,404㎡
除去された対人地雷	23個
除去された不発弾	28個

#### <100円キャンペーン これまでの支援実績>

P-MACは、今回の支援を含めると、カンボジア全土で2,015,337㎡（2001年～2020年）の土地の地雷除去を支援しました。その結果、394個の地雷と616個の不発弾が処理されました。また、4つの小学校と1つの保健所建設も支援しました。



## 地雷被害者への木工彫刻トレーニング

カンボジアの障がい者の自立を支援するため、現地NGO「アンコール障がい者協会（AAD）※」がおこなう木工彫刻トレーニングを資金面でサポートしています。彫刻技術を習得し、商品を作成、販売し収入を得ることで、貧困に苦しむ障がい者やその家族がより良い生活を送れるように支援しています。AADでつくられた彫刻をピースボートの船内で販売し、売り上げの一部を彫刻トレーニングにあてています。

P-MACは2012年7月～2015年6月にも同様のプロジェクトを支援しました。その3年間にトレーニングを受けたのは、のべ13人。地雷被害やポリオなどの病気のために脚に障がいを持ち、働くことができなかつたり、家に引きこもつたり、差別を受けてきた人々です。これまで貧しい生活を余儀なくされてきましたが、彫刻トレーニングを受けることで彫刻家として自立したり、仕事を得ることができました。またこれまで引きこもりがちだった障がい者がトレーニングをきっかけに社会復帰することができ、他の仕事を得た人もいます。

2019年1～12月に3名の障がい者のトレーニングを支援し、2020年1月～12月も引き続き同じ3名を支援しています。2名が地雷被害者で1名がポリオ患者の男性です。全員結婚して子どももいます。父親である彼らが職業訓練を受けて社会復帰することは、家族全員が貧困から抜け出し、子どもたちが必要な教育を受けられることにも繋がります。

※アンコール障がい者協会（AAD）

内戦で地雷被害にあい、両脚を失ったセム・ソワンタさんが2003年に設立したカンボジアのNGO。障がい者の差別と貧困のサイクルに終止符を打ち、経済的・精神的な自立を通してよりよい未来をつくるため活動しています。職業訓練、社会復帰のための精神的なサポート、障がい者の人権問題についての啓発活動などをおこなっています。



## カンボジア地雷問題検証ツアー

第101回ピースボート「地球一周の船旅」（2019年4月20日～8月2日）と、第102回ピースボート「地球一周の船旅」（2019年9月1日～12月13日）内で、カンボジア地雷問題検証ツアーを開催し、地雷除去現場の視察や被害者と交流し、地雷除去を支援したスナハイ村を訪問しました。

第101回ピースボートのツアーには12人が参加しました。ツアーの中で訪れた地雷除去現場は、畑のすぐそばにありました。案内をしてくれた「カンボジア地雷対策センター（CMAC）」の隊員は20年以上、地雷除去の仕事をしている方でした。彼のはなしを聞くことで、内戦終結から20年以上経ても終わらない地雷問題の根深さと、復興の道のりがいかに地道で、時間のかかるものであるかを実感しました。彼は「カンボジアだけでなく、世界中の地雷被害にあっている現場で私たちのノウハウを共有し、世界の平和のために貢献したい」とも語りました。長年、多くの地雷除去をしてきたからこそ、CMACは世界的にみても高度な技術を持つ地雷除去団体となりました。今では、地雷が埋まる他国の視察を受け入れたり、技術協力も進めています。

第102回ピースボートでは、21人がツアーに参加しました。木工彫刻トレーニングを支援している「アンコール障がい者協会（AAD）」を訪問した際には、地雷被害者たちとツアー参加者が、スポーツを通して交流をしました。AADは障がい者スポーツにも力を入れていて、近年はカンボジア代表に選ばれる選手もいます。彼らの多くは貧困や差別、健康の問題などを抱えています。職業訓練など経済的な自立を進めることに加え、スポーツなどで彼らの心を癒すことが、社会復帰に必要であることを実感しました。



<地雷除去員と同じ防具をつけて見学>



<シッティングバレーボールを体験>

「カンボジアから地雷をなくそう 100 円キャンペーン」で支援をしているスナハイ村では小学校を訪問し、わたしたちが集めた募金で地雷除去がおこなわれている現場を視察しました。小学校の裏にある土地はすでに地雷除去が終了し、村人がキャッサバ芋を植えていました。子どもたちが通学路としても使っていました。学校の前方にひろがる土地では地雷除去がおこなわれている最中でした。すぐ近くには人家や畑があります。地雷原のすぐ近くで子どもたちが遊んでいました。スナハイ村では、今も人々が生活しているすぐ隣に地雷の脅威がありました。一刻も早い地雷除去の必要性を痛感しました。

## 「ピースボート・スナハイ小学校」手洗いプロジェクト

ピースボートはLUSH（株式会社ラッシュジャパン）と協力し、スナハイ村の「ピースボート・スナハイ小学校」に、2017年から継続的に石けんを届けています。

カンボジアの5歳未満児死亡率は1,000人あたり31人（日本は3人）です。ワクチンで予防可能な病気や下痢が主な死亡原因です。また下痢になったときに経口補水塩による適切な治療を受けられる子どもは35%、カンボジア農村部で衛生的なトイレを使えるのは39%です。カンボジアの子どもたちが置かれている衛生環境は深刻です。（データは「世界子ども白書2017」より）



スナハイ村でも子どもたちが体調を崩すことは少なくありませんが、周辺に医療サービスが受けられる場所はありません。村の子どもたちが健康でいられるよう、また子どもたちから大人たちにも衛生管理の大切さを伝えていけるよう、石けんを届けて手洗いの方法を教えるための手洗いプロジェクトを進めています。この取り組みが実り、子どもたちの体調不良は減少しています。

第101回ピースボートでは120個、第102回ピースボートでは200個の石けんを届けました。学校で子どもたちと遊んだ後、手洗いの正しい方法を伝える「手洗いの歌」をみんなで練習してから手を洗い、最後にサンドイッチをプレゼントしました。私たちが訪問するのは年に1~2回ですが、継続しておこなっているため、また先生たちが普段から手洗い指導をしているため、多くの子どもたちがやり方を覚えていました。



<子どもたちと「手洗いの歌」の練習>

一方、大きな問題も出てきています。これまで、ある個人の方の寄付によってつくられた井戸が学校にありましたが、この井戸が枯れてしまいました。学校にはこの井戸以外に水を得られる場所がないため、現在は水を購入しています。この水は手洗い、飲み水、トイレを流すためにも使っています。金銭面の問題と水を売りに来るタイミングなどもあり、学校で水を使えない日も出てきています。

学校で水を得ることが困難な状況は子どもたちや村にとっても大きな問題です。現在、必要な協力ができるよう関係団体と連絡をとって相談を進めています。

## ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC 2019年度活動報告書

発行：ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC  
編集：森田幸子 発行日：2020年7月31日

### P-MACの活動にご協力をお願いします！

皆さまからいただいた募金は地雷除去・被害者支援などの地雷廃絶活動に使わせていただきます。

郵便振替口座 00130-3-557600

ゆうちょ銀行 ゼロイチキウウ店（〇一九店）当座 0557600

加入者名 ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC

【お問い合わせは下記までお願いします】

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL：03-3363-7561 FAX：03-3363-7562

E-MAIL：pmac@peaceboat.gr.jp

URL：https://peaceboat.org/projects/pmac